

成人式の様子を撮影した写真を町公式フェイスブックに掲載していますのでぜひご覧ください。



フォローしてね



町公式フェイスブック

成人式実行委員会の皆さん



私たちのこれから

新成人になった皆さんの理想とする大人像やこれからの目標を紹介します



特集

私たちが歩む新時代

はたちー。
恩師、友人、家族などたくさんの人に支えられ、
晴れやかな成人式を迎えました
新成人は何を思い、これからの新時代をどう生きるのか
平成最後の成人式を迎えた、20歳の若者に迫ります



1・2_ 友人たちと記念撮影
3・4_ 久しぶりに会えた先生と話が弾む
5_ 懐かしの給食メニュー
6・7_ 盛り上がった抽選会。じゃんけん
で負けて景品を逃す場面も

平成31年成人式を開催

「平成31年成人式」は1月13日、文化センターで開催され、対象者323人のうち248人が出席しました。今回の成人式のテーマは、「松前の光たちよ、まっさきに集まれ」です。

立食形式で行われたパーティーでは、栄養教諭などの有志により当時のリクエスト給食を再現したおでんが

振る舞われ、参加者は懐かしい味を楽しんでいました。

このほか参加者が20歳を節目に決意を新たにできるよう、実行委員がさまざまなイベントを企画。小・中学校時代の「思い出のアルバム」上映では、式に出席できなかった先生からのお祝いメッセージも流れ、会場からは大きな歓声が上がっていました。

その後行われた抽選会では、抽選で選ばれた参加者が1等ユニバーサルスタジオオジャパンペアチケットのほか、豪華景品をかけてクイズなどに挑戦。最後は特別賞として岡本町長とのじゃんけんに勝った8人に、町のイメージソング「まさき色の風」のCDがプレゼントされました。

式の結びには、新成人を代表して藤久莉公さんお神崎がが今回のテーマの通り、心を新たに自分の目指す光の方へ向かっていきたい」とあいさつ。友人や小・中学校時代の先生と昔を懐かしんだ新成人は、力強く大人への一歩を踏み出しました。



頑張る新成人 CASE 2

来年こそはシード権獲得 箱根で戦う力をつける

小笠原 ^{たかし} 峰士 さん =永田=
神奈川大学 2 年生

走ることが好きなお母さんに、「子どもの頃から無理やり走らされていた」と笑う小笠原さん。小学生の頃から上位で走れるようになり、どんどん走ることになったといいます。中学校3年生のとき、全国都道府県対抗男子駅伝大会に県代表として出場。さらに高校3年生のときには、松山商業高校として13年ぶりとなる全国高校駅伝への出場を果たすなど、陸上選手として力をつけていきました。

きっかけは母

神奈川大学で駅伝部に所属する小笠原さん。1月に開催された第95回箱根駅伝に出場し、5区を走り切りました。小笠原さんは「箱根駅伝に出ることが夢だったので、うれしかった」と話す。一方、総合16位という結果に「チームとしてはシード権の獲得を目指していたので、納得のいく走りができずくやしい」とし、「残り2年の大学生活で、箱根駅伝で勝負できる力をつけたい」と意気込んでいます。

箱根駅伝出場



◀箱根を走る小笠原さん

「母が走らせてくれなかったら今の自分はないので感謝しています」と話す小笠原さん。「これからは自立して、自分の力で結果が出るように頑張っていきたい」と力強く語ります。

支えてくれる人たちに感謝

小笠原さんの恩師は、中学校の3年間野球部顧問だった宅見浩先生。当時を振り返り、「先生には一生懸命取り組み中にも、厳しさと楽しさを教えてもらった」と話します。「いろんな人に支えられてここまで来られた」と話す小笠原さん。「将来はまだ分からないけど、今後結果が出せたら実業団に入りたいという気持ちもある」と話し、輝く未来に向けて着実な歩みを進めています。

お世話になった先生

中学校時代の恩師 宅見 浩 先生

中学校時代は穏やかなリーダー的存在で、野球部でもキャプテンを務めていました。何ごとにも真面目に取り組み、粘り強く最後までやり切る生徒でした。冬の部活で行っていた、学校の敷地周りのランニングでは必ず1位だったことを覚えています。陸上はこれから先もずっと続けてほしいです。



支えてくれる家族

小笠原さんの母 小笠原 陽子 さん

昔から優しく素直な子どもでした。中3のときに初めて「箱根に出たい」と口にし、大学からは親元を離れ夢を持って走り出す息子を送り出しました。厳しい世界ですが、その夢を2年で叶えたことは誇りに思います。けがの心配は尽きませんが、これからも1番のファンとして応援していきます。



CASE 1 頑張る新成人

みんなを笑顔にするような わくわくする仕事がしたい

濱田 果歩 さん =筒井=
松山大学 2 年生



アイデアを出すのが好き

松山大学で経営学を学んでいる濱田さん。1年生のときから民公学連携事業や所属ゼミで企画するプロジェクトチームに積極的に参加し、持ち前のアイデア力を生かした提案でチームを盛り上げています。

「自分たちから発信すること、ただ学生生活を送っているだけでは得られない経験ができる」と話す濱田さんは、所属ゼミで映像広告の制作に取り組み、班のリーダーを務めています。駅構内で流す予定のこの映像を「通勤途中の人が見て、元気になるものにしたい」と意気込んでいます。

根底にあるのは高校時代

明るく活動的な濱田さんですが、以前は積極的に前に出るタイプではありませんでした。濱田さんを変えたきっかけは、伊予高等学校で吹奏楽部に所属したこと。「仲間と一緒にイベントに参加し、演奏を聴く人が喜んでくれるのが楽しくて仕方あ



▲高校時代。仲間たちと長谷川先生

りませんでした」と話すように、聴く人を楽しませることに大きな魅力を感じました。そんな濱田さんの恩師は吹奏楽部顧問の長谷川公彦先生。「演奏の技術だけではなく、あいさつや人に感謝する気持ちなど、教えてもらった基本的なことが今に役立っています」と先生への感謝の気持ちを話します。

チャレンジし続ける

「将来のことはまだ分からないけど、考えただけでわくわくするような仕事があった」と話す濱田さん。これからは歩みを止めることなく学生生活を通していろんなことに挑戦していきます。

お世話になった先生

高校時代の恩師 長谷川 公彦 先生

高校時代からコツコツ努力型で落ち着きがあり、安心して見ていられるような、規範意識の高い生徒でした。「何かの役に立ちたい」という思いが強く、気付きのできる子なので、これからもチャレンジを続け、元気に活躍してくれることを願っています。



支えてくれる家族

濱田さんの母 濱田 千加 さん

昔は、内気でどちらかといえば引つ込み思案な子どもでした。高校に入ってから今のように誰とでも交わることができるようになり、行動力もついてきたなと感じます。強い精神力でまずは自分のことをしっかり考え、その後で他人のことも考えられるような気配りのできる大人になってほしいです。

